

賀正

令和5年

新春を迎えて



町民の皆様、明けましておめでとうございます。

令和5年の年頭にあたり、鹿部町の更なる発展と町民皆様のご健勝とご多幸を心からお祈り申し上げます。

さて、冬季オリンピックで幕を開け、北海道日本ハムファイターズ伊藤大海投手の2シーズン連続10勝とサッカー日本代表の大活躍で幕を閉じた1年間を振り返ってみますと、ロシアによるウクライナ侵攻をはじめ、安倍元首相銃撃事件やエリザベス女王崩御などまさに激動の年でした。また、未だ収束していない新型コロナウイルス感染症について、ワクチンや新薬の開発が進むなど明るい希望も見えてきた年でもありました。

そのような中、現在、本町では行政運営の総合的な指針となる次期鹿部町総合計画を策定しております。現行の計画策定時の人口推計は、2022年で4,226人

と算出されていましたが、実際には3,666人と減少しました。また、現在、大岩、鹿部、出来瀧地区に住む20代の漁協組合員は一人もおらず、町全体で毎年生まれてくる子供も15人を超えない状況となっております。

私たちは、この事実を直視しなければなりません。

一方で、昨年、来場者200万人を達成しました道の駅しかべ間歇泉公園は、都市と地方の交流拠点として、年間約30万人もの方々が訪れる施設となり、また、水産物や加工品の返礼品を中心としたふるさと納税による寄附額も7億5千万円を超えるまでになりました。

ただ、残念なことに、その来場者が道の駅以外の商店などでお食事やお買い物をするケースはごくわずかとなっております。

私たちがとるべき対策は、いかに、道の駅に来てくださったファンの皆様が道の駅以外の商店などで楽しんでいただくか、また、いかに、ご寄附いただいたファン

の皆様実際に鹿部に遊びに来てもらうかであり、最終的には鹿部に住んでもらうことを目標に、子育てや高齢者福祉、医療体制、住環境、働く場所などの充実・支援をするための施策が必要です。



道の駅来場者200万人達成



本町では、これまでも皆様のご協力のもと、一步一步、各施策を進めておりますが、今後、尚一層の充実を図るためには、その財源の確保が重要となります。稼ぐ自治体、稼ぐ地域を築くためには、私も含めた役場職員をはじめ、町民皆様の意識を変えるA級グルメ構想の理念により、地域の良さと価値を再認識し、高付加価値商品などで外貨を稼ぎ、鹿部町産業振興基本条例で示されている各層が互いに支え合うことで資金等の町外への流出を出来るだけ少なくする「地域循環型経済」の構築に加え、温泉や森林などを活用した公共施設の温泉熱による暖房、給湯利用や木質チップボイラーの活用などの自前エネルギーもまた、町外への流出を防ぐ大きな施策の一つと考えております。



A級グルメ料理教室の様子

なお、令和5年度における施策や予算については、新年度の執行方針などでお示ししますが、町の魅力を高めるため、鹿部史上最大となる子育て支援へ挑戦します。また、シルバーハウジングや若者向け住宅整備の具体的な検討に入り、若者や高齢者の住環境整備支援につなげます。「つくり、守り、育てる漁業」では、ブルーカーボンにもつながる青のり陸上養殖やナマコ海中施設養殖などの試験にも引き続き挑戦するとともに、デジタル化や福祉をまちづくりのど

真ん中に置いた稼ぐ地域として健全な財政運営のもと、スポーツや文化支援の充実、減災対策の強化も図ります。日本一魅力ある漁師町、日本一行つてみたい、住んでみたい漁師町を目指し、町民の皆様と力を合わせ、オール鹿部で立ち向かい、この町に暮らす誰もが支え合い、昔ながらの「共生き」の精神で各世代が安心して暮らせる「地域共生型社会」を築き上げ、あたたかくてぬくもりのあるまちを目指して参ります。



青のり陸上養殖の様子

結びに、子どもたちをはじめ、全ての方々が、マスクなど制限のない、笑顔で暮らせる生活が一日も早く訪れますこと、また、かけがえない命を守るため、献身的な対応をいただいております医療・介護従事者の皆様はじめ、生活基盤維持のために感染リスクと隣り合わせの中、最前線でご対応いただいております全ての方々に心より深く感謝申し上げます、町民皆様の益々のご活躍とご健勝、ご多幸を心よりお祈り申し上げます、新年のご挨拶といたします。

令和五年元旦

鹿部町長 盛田 昌彦

